

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 5 月 23 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24390475

研究課題名(和文) 看護職員の職業移動と心理社会的/経済的要因に関する縦断的研究

研究課題名(英文) A longitudinal study of nurses' occupational mobility and the psycho-social factors in Japan

研究代表者

朝倉 京子 (Asakura, Kyoko)

東北大学・医学(系)研究科(研究院)・教授

研究者番号：00360016

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、看護職員の職業移動の実態と、職業移動と心理社会的要因との関係を縦断的に明らかにすることを目的とした。西日本に所在するA系列病院のうち、看護師配置7体以上を満たす病院の看護師全数を対象として大規模の縦断的調査(10,000名規模、3か年)を実施した。ベースライン調査の結果、年度末までに離職する予定者は4%存在することが明らかになった。第1回目追跡調査では、年度末までに離職する予定者は3%存在することが明らかになった。第2回目追跡調査の結果と縦断的データについては、解析中である。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to explore the status of occupational mobility of Japanese nurses and the causal relationship between occupational mobility of nurses and psycho-social factors. A self-administered questionnaire was distributed to registered nurses (n = 11,171) working in group hospitals in western Japan in 2014 for the baseline survey and to registered nurses (n=4,006) in 2015 and 2016 for follow-up surveys. The results of baseline survey showed that 4% of the participants were willing to quit their job in the fiscal year and around 10% of the participants had the possibility to quit their job in the near future. The results of the first follow-up survey showed that showed that 3% of the participants were willing to quit their job in the fiscal year and around 10% of the participants had the possibility to quit their job in the near future. The second follow-up survey data and the longitudinal data are now analyzing.

研究分野：看護学

キーワード：職業移動 看護師 心理社会的要因

## 1. 研究開始当初の背景

看護職員の大量採用・大量退職（離職）の傾向は続いており、病院勤務の看護職員に限ると2009年の看護職員は89万人で、年間4.8万人の新卒者が就職しながら総数が2.2万人しか増加しないのは、年間10万人以上の離退職が一因である。大量採用・大量退職が続いた結果、潜在看護師は55～65万人（免許保有者の約3割）と推定され、看護人材の大きな損失である。

看護職員の職業移動および離職意向には、心理社会的要因が大きく関与すると予測される。心理社会的要因には2種類が想定され、1つ目の労働環境要因として職業性ストレス、仕事満足度、心身健康などが、2つ目の個人要因として専門職的自律性、職業コミットメントなどがある。

因果関係を厳密に検証するためには、横断研究よりも縦断研究が優れている。看護職員の職業移動と心理社会的要因については、横断研究が行われてきた<sup>1)2)3)</sup>。また、縦断研究では、看護師の離職には夜勤回数が影響すること<sup>4)</sup>、新人看護師の離職意向に心理的ディストレスが影響すること<sup>5)</sup>が明らかにされてきた。しかし、働く年齢全世代の看護職員の離職要因、離職後の復職や転職、進学状況などを含めて、看護労働力が市場を移動する実態、職業移動に与える影響要因は縦断的には明らかにされていない。

1) 渡邊里香他(2010)若手看護師の離職意向に関する個人要因と組織要因の検討、日本看護科学会誌、30(1)、52-61

2) Iino, H(2011) Factors Related to Turnover Among New Japanese Nurses, Abstracts of Sigma Theta Tau International

3) Yamazumi, Y(2011) Factors that Affect Turnover and Voluntary Quitting of Jobs by Newly Graduated Nurses, 掲載誌同上

4) 荒川千秋(2011)女性看護師の離職に関する要因、日本看護研究学会雑誌、34(1)、85-92

5) Tominaga, M & Miki, A(2011) A longitudinal study of factors associated with intention to leave among newly graduated nurses in eight advanced treatment hospitals in Japan. Industrial Health, 2010: 48, 305-316

## 2. 研究の目的

本研究では、西日本に所在するA系列病院のうち、看護師配置7対1以上を満たす病院の看護師全数を対象としての大規模の縦断的調査(10,000名規模、3か年)を実施することで、看護職員の職業移動の実態と、職業移動と心理社会的要因との関係を明らかにする。この研究成果は、看護職員の定着促進と魅力的な職場環境づくりのための制度改革に貢献する提言作成に役立て、将来のより大規模なパネル調査を導く科学的根拠を提示することに貢献する。

## 3. 研究の方法

### (1) 平成24年度

平成24年度は、(a)職業移動に関わる心理社会的な探索と決定、(b)変数を測定するための尺度の開発/翻訳、(c)データを収集するためのシステム開発の準備、(d)協力病院への依頼、を実施した。(a)については、国内外の文献の検討、研究代表者らが過去に行った調査の再分析を行い、変数を決定した。(b)については、2つの尺度を検討した。まず、研究代表者らが3年前から開発を手掛けてきた看護師の専門職的自律意識の信頼性と妥当性を確認した。次に、米国で開発された職業コミットメント尺度の翻訳を行い、その妥当性を検討し、ワーディングの見直しを行った。(c)については、データの収集方法について検討し、紙媒体での調査票での回答と、インターネット上での回答という2つの方法を採択することに決定した。そのため、複数のシステム開発会社と打ち合わせを行い、倫理的かつ合理的なシステムの開発が可能な企業を選定した。(d)については、全国に系列病院をもつ某医療法人に調査の依頼を行い、内諾を得た。さらに、この系列病院のうち、西日本エリアにあり、かつ選定条件に合致する病院の全看護職員を対象とすることで、内諾を得た。

### (2) 平成25年度

平成25年度は、(a)倫理審査の受審、(b)インターネット調査のシステム開発、(c)ベースライン調査の3点を実施した。(a)については、平成25年6月に東北大学大学院医学系研究科倫理委員会を受審し承認された。(b)については、守秘義務を遵守する専門業者に依頼した。そのなかで、回答者へのフィードバックシステム等を開発し、対象者に対してすぐに自身の結果を報告できるシステムとなるよう工夫した。(c)については、インターネット調査システムの開発後、西日本の対象施設に勤務する看護職全数(13,700名)を対象としたベースライン調査を実施した。同時に、次年度以降の追跡調査のため、対象者には紙媒体の個人情報管理票あるいはウェブ上での個人情報入力を依頼した。

### (3) 平成26年度

平成26年度は第一回目の追跡調査を実施した。追跡調査は、ベースライン調査と同様に、郵送調査及びインターネット調査にて実施した。郵送調査では、ベースライン調査で追跡調査への協力に同意した4,500名を対象として追跡調査を依頼した。インターネット調査では、ベースライン調査時に追跡調査に同意した150名を対象に調査を実施した。

### (4) 平成27年度

平成27年度は、第二回目の追跡調査を実施した。第二回追跡調査は、ベースライン調査、第一回追跡調査と同様に、郵送調査及びインターネット調査で実施した。郵送調査で

は、ベースライン調査で追跡調査に同意した4500名を対象とし、2114名から回答を得た。インターネット調査では、ベースライン調査時に追跡調査に同意した150名に調査を実施し、52名から回答を得た。

#### 4. 研究成果

##### (1) ベースライン調査

近畿地方、中国/四国地方、九州/沖縄地方にある日本赤十字社の病院(看護師配置7:1の病院に限る)30施設に勤務するすべての看護職員(全数13,760人、調査票配布は休職者を除く11,171人)に調査票を配布した。

回収された調査票は5,760票(回収率52%)であった。

##### 対象者の属性・特性

95%が女性で、平均年齢は36.2(±10.4)才であった。最頻値(最も回答が多かった値)は、23歳であった。看護師としての経験年数については、平均年数は13.7(±10.2)年、最頻値(最も回答が多かった値)は1年であった。回答者に新卒看護師が多数を占める状況であると考えられる。婚姻状況では未婚(子供なし)が最も多く47%を占め、次いで既婚(子供あり)が40%を占めた。看護に関する最終学歴では、3年課程教育機関が最も多く64%、次いで大学が14%と続く。

対象者の退職予定とその理由、今後の予定平成26年度(平成27年3月末)までに退職予定である者は全体の約4%を占めた。

退職予定の者について、その理由を複数回答で尋ねた結果では、「現在の仕事自体の問題(31%)」「結婚(29%)」「現在の組織の問題(27%)」の回答が順に多く、仕事と組織の問題が上位を占めた。さらに、退職後、看護師として働く予定の者は57%、一方、非看護師として働く予定の者は8%、職種に関わらず働く予定がない者は27%であった。潜在看護職となる予定の者が全体の35%を占めることが推測される。

##### 離職意向

離職意向に関する質問項目では、『今の組織での仕事が嫌になり、真剣に新しい就職先の情報をあつめたこと』『あと先を考えずに“とりあえず仕事を辞めよう”と思うこと』『“離職”や“転職”について真剣に親しい友人や家族に相談したこと』について、「時々あった」「たびたびあった」と回答した者は、それぞれ39%、48%、43%であった。一方、「たびたびあった」と回答した者は、いずれも1割前後を占め、近い将来離職する可能性の高い者が1割程度、存在することが示唆された。

##### 仕事の満足度と看護師の専門性

現在の仕事の満足度については「普通」と回答した者が最も多く43%を占めた。

「満足」「やや満足」と回答した者は28%であった一方、「やや不満足」「不満足」と回答した者が30%とわずかに上回った。

看護師の専門性に関する質問項目では、『患者にいつどんな専門職の援助が必要かを判断するのに、看護師は適任であると思う』『自分の判断に基づいて看護を実践したいと思う』について「とてもそう思う」「そう思う」と回答した者がそれぞれ約6割を占めた。『自分の勤務日程は自分で決めたいと思う』については「とてもそう思う」「そう思う」と回答した者は34%と低い一方、『その日の仕事の進め方については、患者の状態を熟慮しつつ自分で決めたいと思う』は70%を占めた。

これらの結果から、回答者が同職種・他職種のチームで展開する患者ケアにおいて、勤務日程を個人が決めることは難しいと認識する一方、看護師の仕事における専門職の自律性を重じている者が多いことが伺える。

##### (2) 第1回目追跡調査

近畿地方、中国/四国地方、九州/沖縄地方にある日本赤十字社の病院(看護師配置7:1の病院に限る)30施設に勤務するすべての看護職員(約13,760人、調査票配布は11,171人)で、第1回調査時に、追跡調査に同意した4,006名。なお、ここではすべての回答のうち、第1回調査時と同じ施設で働く対象者について報告する。

##### 対象者の属性

96%が女性で、平均年齢は40.1(±10.3)才であった。最頻値(最も回答が多かった値)は、38歳であった。婚姻状況では既婚(子供あり)が最も多く48%を占め、次いで未婚(子供なし)が36%を占めた。雇用形態では正規職員が最も多く93%を占め、看護師としての経験年数については、平均年数は17.4(±10.3)年、最頻値(最も回答が多かった値)は3年であった。

##### 対象者の退職予定とその理由、今後の予定

平成27年度(平成27年3月末)までに退職予定である者は全体の約3%を占めた。

退職予定の者について、その理由を複数回答で尋ねた結果では、「現在の仕事自体の問題(44%)」「現在の組織の問題(30%)」「自身の体調(26%)」の回答が順に多く、仕事と組織の問題が上位を占めた。さらに、退職後、看護師として働く予定の者は54%、一方、非看護師として働く予定の者は8%、職種に関わらず働く予定がない者は34%であった(図14, 15, 表1)。潜在看護職となる予定の者が全体の4割近くを占めることが推測される。

##### 離職意向

離職意向に関する質問項目では、『今の組織での仕事が嫌になり、真剣に新しい就職先の情報をあつめたこと』『あと先を考えずに“とりあえず仕事を辞めよう”と思うこと』

『“離職”や“転職”について真剣に親しい友人や家族に相談したこと』について、「時々あった」「たびたびあった」と回答した者は、それぞれ 33%、41%、37%であった。一方、「たびたびあった」と回答した者は、いずれも 1 割前後を占め、近い将来離職する可能性の高い者が 1 割程度、存在することが示唆された。

#### 仕事の満足度と看護師の専門性

現在の仕事の満足度について、「全体的にみた今の仕事の満足度」では「普通」と回答した者が最も多く 36%を占めた。「満足」「やや満足」と回答した者は 31%であった一方、「やや不満足」「不満足」と回答した者が 33%とわずかに上回った。

看護の職業に関する質問項目では、『看護という職業に就いていることを誇りに思う』について「とてもそう思う」「そう思う」と回答した者は約 6 割を占めた。一方、『看護という職業に責任を感じているので続けるつもりである』について、「全くその通りだ」「その通りだ」で約 4 割であった。看護の職業を誇りに思う者が多い一方で、職業の継続意欲はさほど強くない状況が伺える。

#### (3) 第 2 回目追跡調査

第 2 回追跡調査のデータについては、平成 28 年 4 月現在、クリーニングと解析を実施中である。

#### (4) ベースライン調査データを用いた解析結果について

(a)看護職の離職意向における職業コミットメントと健康指標の交互作用、(b)看護職の離職意向における性別と専門職的自律性の交互作用、(c)看護職の離職意向に関する世代ごとの差異について、分析を行い、学会にて発表した。

#### (5) 縦断データの解析結果について

縦断データの解析結果は、第二回目追跡調査のデータ整理を終了してから、データ結合作業を行い、解析する予定である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 4 件)

Maki Tominaga, Kyoko Asakura, Ikue Watanabe, Miho Satoh, Yukari Hara, Takashi Asakura. Factors of intention to leave among nurses classified by generation in Japan: A cross-sectional study using a large sample completed survey. 19th EAFONS, 2016 March 14,

Makuhari Messe Chiba.

Kyoko Asakura, Maki Tominaga, Miho Satoh, Ikue Watanabe, Yukari Hara, Takashi Asakura. The relationship between Japanese nurses' intention to leave, sense of professional autonomy, and gender. 19th EAFONS, 2016 March 14, Makuhari Messe, Chiba.

Kyoko Asakura, Maki Tominaga, Yukari Hara, Ikue Watanabe, Miho Satoh, Takashi Asakura. The interaction of occupational commitment and health indicators on nurses' intention to leave in Japan. 4th Wellbeing at Work conference Amsterdam 2016, 2016 May 30, Amsterdam. The Netherlands.

朝倉京子, 富永真己, 佐藤みほ, 渡邊生恵. 看護職の離職意向における職業コミットメントと健康指標の交互作用. 第 35 回日本看護科学学会学術集会. 2015 Dec 6, 広島国際会議場. 広島市.

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

下記のホームページに、ベースライン調査、第一回目追跡調査の結果をアップした。  
<http://www.nem.med.tohoku.ac.jp/report.html>

#### 6. 研究組織

(1)研究代表者

朝倉京子 (ASAKURA, Kyoko)

東北大学・医学系研究科・教授  
研究者番号：00360016

(2)研究分担者

富永真己 (TOMINAGA, Maki)  
京都橘大学・看護学部・教授  
研究者番号：40419974

渡邊生恵 (WATANABE, Ikue)  
東北福祉大学・健康科学部・講師  
研究者番号：30323124

佐藤みほ (SATO, Miho)  
東京医療保健大学・看護学部・講師  
研究者番号：30588398

朝倉隆司 (ASAKURA, Takashi)  
東京学芸大学・教育学部・教授  
研究者番号：00183731

原ゆかり (HARA, Yukari)  
東北大学・医学系研究科・助手  
研究者番号：20756259

(3)連携研究者

( )

研究者番号：